

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3390101560		
法人名	医療法人 たくふう会		
事業所名	グループホーム津島の里		
所在地	岡山市北区津島京町1丁目5-18		
自己評価作成日	平成29年11月6日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利法人 高齢者・障がい者生活支援センター		
所在地	岡山市北区松尾209-1		
訪問調査日	平成29年12月6日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

・母体であるクリニックの医師・看護師と24時間医療連携が図れる体制で、毎夕医師に申し送りも行っていきます。ご希望により看取りまでの介護を提供させていただいており、安心して施設での生活を継続していただけています。
 ・家事などをお手伝いいただく事で日常生活に役割を持ち、また、歌などのボランティア、季節ごとの行事、散歩、ドライブ、地域の行事への参加などを通して生活を楽しんでいただける工夫を行っています。
 ・ご家族が植えてくださる野菜を収穫して食卓を彩るなど季節感を味わっていただけています。
 ・お身体の不自由な方にもご入浴いただけるように特殊浴槽も完備しています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所全体が明るく清潔感があり、入居者と職員の協働作品が飾られ、和やかな雰囲気づくりの中で入居者と職員の信頼関係を大切にした生活支援に努めています。
 母体がクリニックであり、毎日の健康状態がクリニックに報告され、24時間、緊急時にも対応ができるといった医療面が充実しています。
 勤務年数の長いスタッフも多く、又、管理者・職員のコミュニケーションも良く2ユニットある中で、スタッフの欠勤や災害時に備えて、各ユニットの職員は急な対応でもできるように、お互いのユニットの入居者の状態も把握するようにしています。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	お一人お一人に目を向け、その方らしい生活が維持継続できるように工夫しています。全職員が同じレベルになるように努力しています。	ユニット毎に、年間の目標を掲げ、職員個人の目標も年毎に設定され、年2回の個人面談では、できていないところに気付き、考えるように常に向上心を持つようになっています。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	運営推進会議には毎回地域の方が参加して下さり、ご助言や地域の情報をいただくなど情報交換をさせていただいています。地域の一員として町内の行事などに参加させていただいています。	地域の町内会長が、入居者様が安心して暮らすことができるように、地域の情報を伝えてくれています。入居者様が地域の行事に参加するようになって、入居者様の隠れていた面に気付くこともできるようになりました。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	ご入居者と一緒に地域活動に参加させていただいたり、運営推進会議で認知症についての話をさせていただくなどしています。また、グループとしてもオレンジカフェの開催などを行っています。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実践、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	ご家族や地域の方から頂いたご意見をカンファレンスにて職員で共有し、サービスの向上に努めています	運営推進会議では、家族が多数参加し、地域も協力的でサービスについての具体的な要望や意見、またアドバイスもあり、サービス提供に活用できています。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	地域包括支援センターの方に運営推進会議にご参加いただいたり、参加いただけなかったときは議事録をお送りし、事業所の実情や取り組みをお伝えし協力をお願いしています	事業所の情報は直接出向いて地域包括支援センターに報告されています。また、何かあった時の協力体制は整っています。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	玄関については防犯上施錠していますが、定期的な研修や問題となっていることを話し合いながら、日々の介護の中で身体拘束をしないケアを意識し取り組んでいます	毎月のカンファレンス以外で、日常の業務の中で、職員から入居者への声掛けを確認しあったり、メディアの情報からでも、自分たちの事業所も改め確認するようになっています。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止委員会を中心に虐待防止関連法について研修を実施、また、事例検討や接遇についての話し合い、自分たちのケアの見直しをこまめに行い防止に努めています		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度についての研修を実施。成年後見制を活用する方も増えています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	説明の際に疑問などはないかを確認し、ご理解・納得頂けるように努めています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	“ご意見箱”を施設内に設置しています。また、面会時や運営推進会議時に意見・要望をお聴きし、職員で共有・反映しています	面会が多く、会議への出席も多く、日常的な対話を心掛け、家族から防犯対策についての意見や提案があり、運営に反映されています。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月2回のカンファレンスや年2回の個人面談の他、日頃から職員が意見や提案をし易い環境整備に努め、それらを話し合ったり反映できるように努めています	管理者は職員からの意見があると受け入れ、なるべく実行し、その結果はどうであったか、または反省なども含め、試行錯誤をし最適なサービス提供につながる様に努力しています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	勤務状況を把握し、職員が働きやすい職場環境・条件となるように努めています		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	仕事を通しての助言だけでなく、法人内の研修への参加や一人一人の能力に応じた外部研修にも参加できるようにしています		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	外部・グループ内研修などの参加を通して同業者等との交流や意見交換を図りサービスの質が向上していけるように努めています		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご本人の話を傾聴・情報収集に努め、職員間で情報を共有していくことで早期に信頼関係が築けるようにしています		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族のご要望を伺い、良好な関係が築けるように密に連絡を取るようになっています		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご家族、ソーシャルワーカー、ケアマネジャーからお問い合わせや見学があった際、話し合いに努めています		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日々の家事をお願いする等、ご本人の生活の場であることを念頭に関係を築いています		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時間の設定はありますが自由に面会していただき、また、ご家族来所時や毎月のお便り、電話などこまめに情報共有し共に支える関係を築いています		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	行きつけだった美容師の訪問や知人の面会、ご家族の協力による外出などが行えるように支援しています	遠方から来られた家族が入居者の居室に泊まることもあります。馴染みの人から手紙が届いたら、返事を出すことができるように援助しています。また、2ユニットの入居者同士の交流ができるように、援助しています。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	出来る限り共有スペースでお過ごしいただけるように工夫し、時には利用者間のトラブルもあるが、職員が間に入り、皆が楽しく生活できるように支援しています		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	自宅に戻られた入居者との関係を継続しています。必要に応じて相談や支援に努めるようにしています。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ケアプランの点検などカンファレンス時に定期的に話し合いの場を持ち、ご本人が安心して生活が送れるようにしています	担当制になっており、担当者を中心に定期的にあるいは必要時に、アセスメントやプランの評価を行います。職員全員が共有できるように、カンファレンスで話し合っています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	アセスメント・フェイスシートの活用その他、ご本人やご家族との日常会話を通して生活歴や暮らし方などについて把握し職員間で情報共有を行っています		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々心身状態が変化するので、その都度状態を把握し対応するように努めています		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	カンファレンス時にモニタリングを実施している他に状態の変化に応じてこまめに話し合い、ご本人・ご家族の意向も確認しながら現状に即した計画書作成に努めています	カンファレンスで検討しあいながら作成された介護計画書は、家族も参加できるように、プラン見直し時に返信シートを送り、意見を聞くようにしています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護記録・申し送りノートを活用して情報共有を行い、カンファレンス時などに計画の見直しにもつなげています		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	お一人お一人の状態把握に努め、ご本人・ご家族の意向に沿えるようにアイデアを出し合い支援を行う努力をしています		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	買い物に同行してもらったり、地域の行事などに参加し生活を楽しむことができるように支援しています		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	母体法人の医師・看護師との24時間の連携体制や医師の定期訪問診療により適切な医療を受けられるようにしています	定期的にあるいは緊急時に医師の訪問があり、又、従来のかかりつけ医を継続している方もいます。家族と同行して情報共有に努めています。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	医療連携ノートの活用、医療連携体制によりすぐに相談でき、適切な医療や看護が受けられるように支援しています		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時の速やかな情報提供に努め、入院中もご本人との面会を含め医療関係者と情報交換を行っています		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ご入居時に重度化した場合について説明と同意を得ています。状態の変化により早い段階から家族と話し合いを行い、ご本人・ご家族の意向確認に努めています。また、状況により医師からご家族に説明を行い、医師・看護師と情報共有しながらカンファレンスで終末期の対応を話し合っています	状態の変化に伴い、その都度ご家族や医師と相談しながら、その方に添ったケア方法で対応しています。実際に看取りの経験もあり、終末期は家族と連携をとりながら、自宅で看取ったケースもあり意向にそった支援に努めています。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	看護師による指導やグループ内研修、カンファレンス内で初期対応などの確認を行っています		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	火災・水害などを想定した避難訓練を定期的実施しています。また、運営推進会議などを通して協力体制の確認を行っています	火災時の訓練はオール電化による対策の下で行われており、水害時は避難場所までの移動が難しいと思われるので、エレベーターを使用せず2階に避難できるように、マットレスを担架代わりにして階段を移動する訓練を行い、避難方法を全職員が身に付ける様取り組んでいます。	様々な災害を想定し、それに向けての避難訓練が、地域の方達と連携して対応ができるように今後も取り組んでいかれることを期待します。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	接遇についての話し合いや事例の検討などカンファレンス時にこまめに行うようにしています。パットなどの使用が他者にわかりにくい工夫をする等プライバシーの保護に努めています	何気ない言葉かけにも、職員同士で気付きあえるように、業務中にも気を配っています。また、紙おむつ類の保管方法についても、プライバシーが損なわれないように配慮しています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	過介助にならない事も含め、ご本人のペースや希望に合わせた生活支援が行えるように日頃から声掛けを行っています		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員都合で接してしまうこともあるため、ご本人の生活リズムを大切に支援できるように心がけています		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	自己決定できる方はその日の衣類を決めていただいたり、好みの色や物を把握し声掛けを行うなどしています。また、訪問理容の活用などを行っています		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	調理の下ごしらえ、盛り付けや配膳、後片付けなど個々の力を活かしながら一緒に行っています	業者による献立と食材を使用していますが、入居者に野菜を切ってもらったり、炒め物や盛り付けをしてもらったりと共同作業で調理が行われています(家族が事業所の畑で育ててくれた野菜も使用しています)。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事摂取量・水分量チェック表を活用。摂取困難な場合はご本人の嗜好を確認したり食事形態を工夫する等し、自力摂取困難な時は介助する等しています		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、全入居者の口腔ケアを実施。ご本人で行えない場合はスタッフが介助しています。また、必要に応じて訪問歯科を活用していただく事もしています		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を活用し定期的なトイレ誘導をすることでできる限りトイレで排泄が行えるように支援しています	オムツ類に頼りきってしまわないよう、下着を洗濯することを優先しています。夜間車椅子を利用するなどなるべくトイレで排泄ができるように、入居者個々に対応方法を検討し支援が行われています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分摂取量の確認や食事内容の工夫、散歩等の運動、腹部マッサージなどを取り入れながら毎日排便確認を行っています。便秘が続くときは医師の指示を仰いでいます		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	午前浴・午後浴・一番湯などその方が希望するであろうタイミングで声掛けを行うように工夫をしています。個々に添った支援を心掛けています。	異性介助者の場合は、入居者に確認を行い、希望によっては、同性介助者で対応しています。タイミングに合わせて声掛けし、入浴が楽しめるように個々に添った援助方法ができるように努めています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々の生活習慣や体調に応じ、自由に休んでいただけるように対応しています		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	症状の変化の確認に努め、医師・看護師と連携を図りながら服薬支援を行っています		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	今までの生活を大切に、家事などの役割を担ってもらったり、プリントを提供する等の工夫を行い張り合いのある日々が送れるように支援しています		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	近隣の散歩や本人の希望による外食や買い物、行事でのドライブといった外出支援の他、ご家族による外出もしてくださっています。その日の希望に沿った外出支援ができるように、心掛けています。	お寿司好きな入居者が多く、回転寿司に食べに行くことがあります。戸外の空気に触れることができるように、庭に机や椅子を出して、おやつを食べたり、畑に野菜をとりに行くこともあります。行事・ドライブでは観光地に出向いています。	今後の外出支援に向けては、職員だけでは対応が難しいこともあるので、家族やボランティアの方達の協力も得ながら、外出支援が充実していかれることを期待します。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お小遣いの管理は施設が行っていますが、買い物同行でご自身の必要品や嗜好品を購入した時は支払いをしてもらうなどしています		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご家族への電話希望がある場合は支援しています。葉書を出したいといった希望にも応じています		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	安全確保に努めながら、居心地良く過ごせるように刺激を少なくし、壁画などは季節感を感じられるように入居者と一緒に作業を行っています	暖色系の照明を使用したり、テレビだけではなく、BGMを流したりと共用空間の環境作りができています。屋内でも四季を感じることができるように、四季折々の貼り絵を、共用スペースの壁に掲示しています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	気の合った利用者同士で過ごせる席の配置や、一人でくつろげる空間を工夫しています		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご本人の使い慣れたものや思い出の品、植木などを自由にお持ちいただくなどしています	ベットとタンスは備え付けの物がありますが、入居者の使い慣れた椅子や、テーブルなど、その方が好むように設置をしています。ご家族の写真なども飾られており、入居者様が安心して過ごせる空間になっています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	自室やトイレ、浴室などがわかりやすいように自身で塗った絵や文字で表示をするなどの工夫をしています		